

保健婦だより

今回は、過日行ないました成人病総合検診の結果と国民健康保険加入者の受診状況についての考察から、成人(四十歳～六十四歳)の健康問題を考えてみたいと思います。

まず、成人病総合検診結果について述べますと、つぎのとおりです。

受診者は、一〇一人とここ数年、少数ですが増加傾向にあります。性別でみますと男性二七人、女性七二人と、圧倒的に女性が多く、七〇パーセント近くを占めています。

います。つぎに各々の検査結果についてみますと、表(1)にありますように、異常者の最も多いものが大動脈硬化で、三六・五パーセント、ついで眼底カメラ二八・五パーセント、胃二一・四パーセント、血圧一八・五パーセント、心電図一七・三パーセントとなっています。

そこで、最も多い大動脈硬化度について、年齢別、性別でみると、表(2)のようになります。これを見ますと、異常者が年齢を追うごとに増加していることがわかります。

今月のふるさとカレンダー

住吉遺跡復元住居



住吉遺跡は、法能地内に立地する縄文時代中期(今から四〇〇〇年から五〇〇〇年前)の遺跡です。この住吉址は昭和四十七年に、市教育委員会により調査発掘され翌年復元されました。

復元された住居址は、直径五、二mのほぼ円形状で、住居址中央北寄りの床面には四枚の安山岩を組合せて作った正方形の石囲い炉があり、これを取り巻くように五個の桂穴が配されています。

出土遺物としては、土偶の頭部埋葬、釣手土器など種々多様なものがあります。

ます。また、性別でみますと、女性より男性の異常者の割合が多いという事も重要視しなければならぬ。そしてこの傾向は、他の検査でも同じことがいえます。

第二に、国民健康保険加入者について述べますと、成人の中で、通院している患者の最も多い疾患は循環器系の疾患(脳卒中・心臓病等)で、つぎに呼吸器系(かぜ等)、消化器系、筋骨格系及び結合組織の疾患の順となっています。

つぎに、このうちの成人病に係る循環器系の疾患と悪性新生物(がん)について、年齢別に分けてみますと、表(3)のようになります。これをみますと、成人病に關係する疾患も年齢を追うごとに増加してきています。(六十歳～六十四歳において減少しているのは、被保険者数が少ないためです)また全国的にも死亡の六〇パーセントを成人病が占めています。それを予防するために、早期発見早期治療が大切です。

そのためにも成人病総合検診を年に一回受けられることをお勧めします。

特に、最近目立って増加してきた悪性新生物(がん)においては早期発見が最も望ましい病気で、

次号へ続く

表 (1) 昭和 56 年成人病総合検診の結果

大動脈硬化	63.5%	36.5%	異常なし
眼底カメラ	74.2%	25.8%	異常あり
胃	78.6%	21.4%	
血 圧	81.5%	18.5%	
心電図	82.7%	17.3%	

表 (2) 大動脈硬化測定異常者の年齢・性別の割合

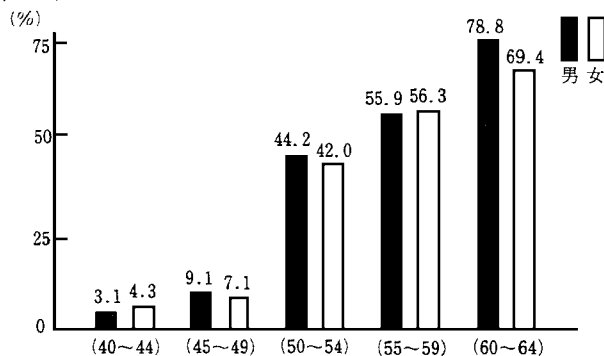


表 (3)

